

伊方原発をとめる会ニュース

2025年9月1日 No.52

〒791-8015

松山市中央二丁目 23-1 平岡ビル 2F

電話 089-948-9990 FAX 089-948-9991

ホームページ <https://www.ikata-tomeru.jp>

メール ikata-tomeru@nifty.com



第81回 原発いらん！市駅前定例アクション

8月6日水曜日の夕刻、伊予鉄道松山市駅前で「原発いらん！市駅前アクション」を行いました。

80年前、広島に原子爆弾が落とされたこの日、「原爆と原発は双子の兄弟 どちらも人類と共存できない」「核のない世界を！」「伊方原発いますぐ廃炉！」と、リリーススピーチ、スタンディングで訴えました。

連日の猛暑のなか通り過ぎる人たちに、両面にイラストの入ったカラフルな特製うちわを配りました。用意した50枚があっという間になくなりました。

嬉しい再会もありました。高校生と親御さんの二人連れから「前にお話を伺いました」と声をかけていただきました。3月の定例アクションでお話をした方でした。若者からのポジティブな反応に勇気が湧きます、ありがとう!!

市駅前アクションは、毎月第1水曜日に行ってます。ごいっしょに声をあげませんか。ご参加をお待ちしています。「なくせ原発！」「いいね原発ゼロ」「地震はとめられない。でも、原発はとめられる！」

市駅前定例アクション	1
第15回定期総会 記念講演	2
目 控訴審 高松高裁裁判体きまる	4
上関中間貯蔵施設計画 白紙撤回を	4
震災後の輪島を訪ねて	5
次 お薦めの本『Hahaの書』	5
インタビューその27 遠藤素子さん	6
2024年度会計報告 文芸コーナー	8

原爆投下から80年 原爆と原発は双子の兄弟
核なき世界に向けて
映画上映とトークイベント
9月13日(土) 13:15~17:00
愛媛県美術館講堂(松山市堀之内)

13:15 映画上映『サイレント・フォールアウト』
14:40 伊東英朗監督アフター・トーク
15:00 対談 伊東 英朗 監督×松浦 秀人さん
15:40 映画上映『放射線を浴びたX年後II』

資料代:500円

講演会

はらしな さちひこ

原科 幸彦さん(千葉商科大学前学長)

自然エネルギー100%社会を創る
ー地域資源の活用で日本再生ー

10月13日(月、祝日) 14:00~16:00

コムズ(松山市男女共同参画推進センター)

5F大会議室(松山市三番町6-4-20)

原発事故から14年 福島をくり返すな！“原発回帰”を許さない！ 伊方原発をとめる会 第15回定期総会 記念講演 なぜ日本は原発を止められないのか？

須藤昭男・事務局長挨拶



伊方原発をとめる会第15回定期総会・記念講演会は、5月25日（日）、松山市男女共同参画推進センター（コムズ）の5階大会議室で100人の参加で開催された。

開会の挨拶で須藤昭男事務局長は、この14年間、弁護団を中心に本当に素晴らしい法廷闘争が展開されたが、3月18日の松山地裁の極めて情けない判決に、本当にがっかりして落ち込んでしまった。しかし、4月に亡くなった斉間淳子さんはじめ、伊方原発廃炉を叫び続けた先人達の長年にわたる不撓（ふとう）不屈の精神や行動、広島で被爆者運動の先頭に立ち核廃絶を叫び続け、96歳で生涯を全うした坪井直さんの「Never Give Up」の言葉、また、福島の甲状腺がんを闘う青年たちを思うと、立ち止まる訳にはいかない。闘い続けなければならない。我らの後に続くものが必ずあると信じて「原発の運転停止、廃炉」を目指して叫び続けよう、と熱い言葉で参加者を鼓舞した。

なぜ日本は原発を止められないのか？

熱弁を振るう青木美希さん



続いて青木美希さん（作家・ジャーナリスト）による記念講演が行われた。青木さんは、廃炉作業中の福島第一原発を取材した動画、帰還困難区域の双葉町で畜産をされていた鶴沼久江さん（タニシ）を取材した動画、

元東海村長村上達也さんのインタビュー動画などを交えて話を展開された。（これらの動画は、青木さんのYouTube「あおタイムス」で無料公開されています）

福島第1原発構内や福島県双葉町の帰還困難区域などの取材から、今も線量が高い様子、悲痛な実態や声を伝えられ、大手メディアには、放射線量の高い現実を記事にしようとしても削られる実態があることが語られた。

〈能登半島地震では海底が2m隆起した。もし原発があったら海水が取れなくて冷却できなかったこと。ロシアの攻撃目標に東海第二原発が入っている（英「フィナンシャルタイムズ」2024.2.31）こと。にもかかわらず、日本政府は第7次エネルギー基本計画で、「可能な限り原発依存度を低減する」との文言を削除し、原発を「最大限活用」、原発新設にも取り組むとする「原発回帰」の姿勢を鮮明にした。〉

政・官・業・学とメディアで「原子カムラ」をつくり、原子力界の権威や権力に対する異論を排斥する社会風土をつくってきた。「原子カムラ」を解体しなければ、日本は原発を止められない。電力会社から政治家へ多額の献金が行く。政治を変える必要がある。福島事故後、崩壊したはずの「原発安全神話」が復活し、「原発回帰」が国策となった今、これを打破するためには政権交代しかない。〉

会場からの「何故日本では原発をやめられないのか？」との質問に、青木さんは間髪入れず「お金です！」と言われた。「一人一人が自分に対しての尊厳を持ち、地方自治、住民自治のために異を唱え議論しよう！正しい情報を子どもたちに伝える努力が必要で、誰かがやってくれる、では何も変わらない。一人一人にできることがある、諦めずにやっていきましょう」と呼びかけた。



会場全景

KOさん 「原子カムの五角形でできている現実をとでも分かり易くお話くださいました。メディアから迫害を受けながら体を張っておられる青木さんならではのお話、重く、胸に響いています」

SYさん 「全国紙で『書く』ことから遠ざけられても、知らせるべき現場の実相を埋もれさせず、そこにいる当事者と直に向き合い、対峙すべきは対峙し、私たち市民の『知る権利』の保障を担うことに、これだけの熱意と行動力をもって応えてくれる記者がいるという。その存在感に希望を持ったのと同時に、福島事故当時からの現在のこと、今さらながら衝撃を受けてしまった。明日から、いや、今から私には何ができるだろうか」

00さん 「講演を聞いて、一人一人の意識が大切であ

ることを再認識しました。徳島から参加させてもらって、とてもよかったと思っています」

NYさん 「高線量炉心部に入り撮影された場面に、背筋が寒くなった。重要な機体を支える大きなボルトの赤く錆びついた映像が、大きく目に入った。このまま何十年も原発の運転を続けるの？ 元東海村村長の「和」はごまかし。和を重んじる風潮に同調するのは問題。個々人が自分で考え、自分で判断することこそ大切。地方自治が重要」とのインタビュー場面が印象深い。政府の後押しを受けて、電力会社も規制委員会も、結局「今だけ、金だけ、自分だけ」の人たちなのだと知って情けないやら、呆れてしまった。この会で3月31日に高松高裁へ差し止めの控訴がされたのだ。原告に加わった一人として、これから何をなすべきかと考え、行動しなければという思いを新たにしたい」

第15回定期総会報告

伊方原発をとめる弁護団から

中川 創太 弁護団事務局長



昨年の10月6日の最終準備書面の学習会から総会までの弁護団の活動として、3月18日の松山地裁判決言渡し前に、地元メディアに向けて裁判の争点についてのレクチャーの機

会を幾度か持った。高松高裁の控訴審のために、とめる会事務局と共同して控訴人の確保に向けた取り組みを行った。

松山地裁の不当判決に対して、弁護団と伊方原発をとめる会の連名で「声明」を出した。その後、3月31日に381人の控訴人で高松高裁へ控訴した。

松山の訴訟だけでなく各地で敗訴判決がつづいている、どうしたらこの状況を打ち破り、巻き返すことができるのか、脱原発弁護団全国連絡会などとも連携し協議しながら、高松高裁での訴訟方針を議論し、控訴理由書の作成に取り組んでいる。

弁護団の財政状況については、現在、弁護団の持ち金残高は151万円あまり、これで高松高裁の弁護団活動をするようになる。一番では原告を増やしていくことができたが、二審では控訴人を増やすことはできないので、不足する状況が来ればまた相談をしたい。

活動報告、決算、活動方針、予算の承認

とめる会事務局から、2024年度の活動報告・決算報告、会計監査から会計監査報告が行われ、それぞれ、拍手で承認が行われた。

その後、事務局から、原発をめぐる情勢の説明と、具体的な活動方針、予算案、役員案について提案が行われた。

会場からは、四国選出の野党の幹部（立憲民主党、国民民主党など）と懇談する機会を他団体とも協力して持つてはどうか。物価高騰の折から、会費の値上げをしてはどうか。ネット署名やクラウドファンディングでカンパの募集など、全国から支援してもらうことを検討してはどうか。幹事会を活性化するための工夫についてなどの意見があり、事務局から、事務局会、幹事会で検討するとの回答があった。議案について、反対意見はなく、採決は拍手によって行われ、活動方針・予算・役員が確認された。

最後に、越智勇二・とめる会事務局次長が「松山地裁判決が出てから、ため息ばかりだけれど、諦めないで運動を続けていきたい。私たちの運動は正義だと思うから。裁判では、中学生や高校生の理解力でも分かるように裁判官に訴えた。手応えもあったと思う。でも勇気がない裁判官だった。高松高裁では勇気のある裁判官に出会って、いい判決が出るように私たちは努力したいと思っている」と述べて、総会を締めくくった。

伊方原発をとめる会HPで、「総会報告」、青木美希さんの講演の資料、講演動画をご覧になることができます。

私たちの控訴審 ようやく高松高裁の裁判体がきまる

松山地方裁判所の3・18不当判決に対し、私たちは控訴人381人（代理人弁護士17人）で3月31日、高松高裁へ控訴を行いました。13年を超えた裁判の膨大な資料が松山地裁から高裁に届けられるのに4カ月以上かかり、8月になって高松高裁で担当する部と裁判官がきまりました。民事第2部、裁判長＝藤田昌宏裁判官、右陪席＝三重野真人裁判官、左陪席＝金洪周裁判官です。

伊方原発をとめる弁護団は、高松高裁に年内に第1回期日の開催を求め、オンラインではなく対面での口頭弁論の開催を求めています。

伊方原発をめぐる4つの裁判を見てみると、広島地裁で3月5日に申立却下の判決があり、広島高裁は12月24日に第1回口頭弁論期日です。大分地裁では、24年の3月7日に判決があり、福岡高裁控訴審は、

今年8月18日に第3回、12月5日に第4回の口頭弁論期日です。山口の裁判では、来年2月26日に山口地裁岩国支部の判決が出ます。

伊方控訴審での勝利めざして全力で奮闘します。

以下は、3・11後、運転差止を求める裁判での勝訴判決です。

2014年 5月21日	大飯原発(福井地裁)訴訟
2020年12月 4日	大飯原発(大阪地裁)訴訟
2021年 3月18日	東海第二原発(水戸地裁)訴訟
2022年 5月31日	泊原発(札幌地裁)訴訟
2015年 4月14日	高浜原発(福井地裁)仮処分
2016年 3月 9日	高浜原発(大津地裁)仮処分
2016年 7月12日	高浜原発(大津地裁)異議審
2017年12月13日	伊方原発(広島高裁)即時抗告審
2020年 1月17日	伊方原発(広島高裁)即時抗告審



高松高等裁判所

上関中間貯蔵施設計画 白紙撤回を

8月5日、「被爆80周年原水爆禁止世界大会・広島大会」の第3分科会で、「上関の自然を守る会」共同代表・高島美登里さんの報告があった。

中国電力上関原発の建設が前進しない中で、2023年8月18日、上関町長が、関西電力と中国電力による使用済み核燃料の中間貯蔵施設を誘致するための事前調査受け入れを臨時議会で表明。2024年11月14日、事前調査のためのボーリング調査終了。今後「適地判断」がなされるのではないかと心配している。

一方で、2024年7月24日に中国新聞が実施した上関町民アンケートでは、『反対』『どちらかといえば反対』合わせて44.8%、『賛成』『どちらかといえば賛成』合わせて44.3%と拮抗している。

近くの田布施町議会が、3月21日『上関町での中間貯蔵施設の建設に反対する決議』を可決。

昨年、柳井市の平郡島の自治会住民にアンケート調査を実施。計画に反対が72%、賛成が4%、よくわからないが24%だったという。

村岡嗣政山口県知事も「(原発)本体施設がありながら、別の(原発から持ち込まれた)使用済み核燃料が同じエリアに存在する場所は、日本中どこにもな

い。負担として非常に過大」と原発と中間貯蔵施設の併設に否定的な考えを示した。(2023年12月26日)

中国電力の島根原発のプールには余裕があり、上関への中間貯蔵施設を早急に作る必然性はない。もっぱら関西電力が福井県若狭湾にある核のゴミを持っていく先を急いでいるのである。瀬戸内海に核施設が増えることは、許せないことであり、とめる会としても反対していきたい。(越智 勇二)



四電の乾式貯蔵施設

四国電力は7月1日、伊方原発敷地内に使用済み核燃料を一時保管する「乾式貯蔵施設」が完成し、運用を始めたことを発表。「六ヶ所村再処理工場が稼働するまでの間、溜め置く」というが、伊方が半永久的な置き場所にされてしまう可能性が否定できない。

能登半島地震から1年半。ずっと気になっていた。ネットで見つけた輪島復興防災ツアーに申し込んだ。金沢からの特急バスは、まだ道路が完全復旧してなくて、何力所かを迂回しながら輪島駅へ。現れたガイドは何と19歳の高校生。彼とマンツーマンの3時間。市内のあちこちを回りながら、復興がなかなか進まない現状など、若者目線でたっぷりと語ってくれた。

輪島市内メイン道路の歩道



解体作業員募集の張り紙。大きく傾いた電柱や建物。隆起や液状化で凸凹の歩道。人通りはまばら。小学校やビルや家

屋の解体中が数件。耐震鉄鋼を施した強固な学校も土地の液状化で傾いたまま埋まっている。朝市通りは焼け跡は片付いているが更地のまま。「復旧には10年にかかるだろう」と。

2m隆起している輪島漁港。漁船は動いていない。一部海底を掘って船の出入りができているようだが、荷揚げは2m分難儀している。「隆起で海水浴場も消えた。神輿を海に担ぎ込む祭りもできなくなった」と嘆く。

人影のない仮設住宅。明らかに復興は進んでいない。1年半も経ったのに。だが「行政に頼んでもなかなか進まないから、自分たちでできることを」と彼は前向きだ。「多くの人が閉じこもっていて、今は人が集まれる場所が必要。こんな風景の中で暮らしている子どもは可哀そうだ」と。彼らが解体後の空き地を整備して作ったという子どもの遊び場には、人工芝が敷かれコンパネをつないだ幅広い滑り台があり、現に小学生2人が遊んでいた。

「隣の家の外壁を使わせてもらって上映会もする」、「夏には夜市も手掛けてみたい」と、目を輝かせる。若者の原動力は素晴らしい。大人も頑張らねばと思う。

一番の収穫は、この旅の目的だった海岸の隆起を直に視て触ったことだ。地球は生きている、ダイナミックに動いているのだ。薄っぺらな地表に建てた原発が安全なわけがない。核のゴミを埋めようとしている地下300mも薄っぺらな地表にしか過ぎない。選択肢は迷わず脱原発しかない。



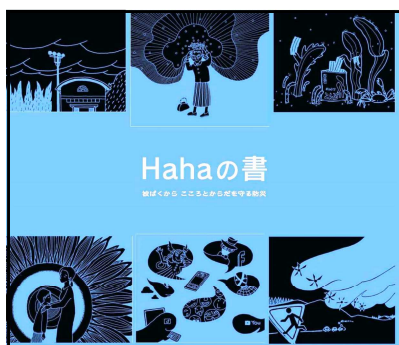
輪島港2m隆起、船からの荷揚げ用浮桟橋設置

おすすめ

『Hahaの書 被ばくから ころとからだを守る防災』

* 発行：NPO法人いわき放能市民測定室たらちね
2025年3月1日 1500円＋税 サイズ130mm×155mm

* 問い合わせ先 * <https://tarachineiwaki.org/contact>
たらちねホームページ問い合わせフォームから
電話でのお問い合わせ：0246-92-2526



NPO法人いわき放射能市民測定室たらちねが、東日本大震災による東京電力福島第一原発事故の被災経験をもとに、原発事故防災book『Hahaの書』を刊行されました。本の中で書かれているエピソードは、原発事故で被災したお母さんたちが、実際に経験し語ったものです。災害国日本で生き抜くために、被災者の経験を学び、同じ悲劇が繰り返されないよう備えてくださいとの願いでつくられました。防災bookでありながら、日常の中で眺めていたくなる素敵な絵本のようなbookです。本文94ページ、見開き全部にイラストがあり、普段から備えておきたいこと、子どもの心について知っておくべきこと、危険な仕事に関わる方々の苦しみなどリアルなエピソードばかりです。

伊方原発をとめる会でもさっそく取り寄せさせていただきました。担当の方のメールをご紹介します。

*

*

私は原発事故後、仕事で出勤していたので、あの時こうしていたらな…と、たくさん後悔がありました。この本を使う日が来ないことを、心から願っています。しかしながら、原発事故を知る大人の世代がいなくなった後も、原子力発電所は存在し続け、その危険性が消えることはありません。

福島のような悲劇を二度と繰り返さないためにも、原発防災の必要性和その重要性を、より多くの方々に知っていただきたいと願っております。この絵本がたくさんの方々の手に届き、未来へのバトンを繋げていけたらと思います。

高校教員から市議へ 原発の危険性を訴え続けて

元・八幡浜市議会議員 ^{えんどう もとこ} 遠藤 素子 さん

今回は、伊方原発運転差止訴訟の原告共同代表の一人であり、伊方町に隣接する八幡浜市議会議員として、5期17年半にわたり伊方原発の廃炉へと闘い続けてこられた遠藤素子さんのご登場です。夫の紀夫（みちお）さんの後を継いで市議となり、今はそのバトンを娘の綾さんに渡された素子さんに来し方をお尋ねしました。

遠藤素子さん近影
御自宅兼事務所



戦中世代に生まれて

問い：1940年に野村町でお生まれですね、戦争中の記憶はおありですか？

遠藤さん：旧野村町の横林（現・西予市野村町横林地区）で生まれました。8人兄弟でしたが小さい頃に2人亡くなって、6人兄妹の下から2番目として育ちました。

戦時といっても幼かったので、夜、防空壕に入った時に敵機が飛ぶのを見たこと、さつまいもの干したものの配給など、食べ物がなくて大変だったのを覚えているくらいです。

歌が大好き、音楽の先生になりたい

問い：小・中・高校時代はいかがでしたか？

遠藤さん：父が校長をしていた皆田小学校に入学し、下宇和中学校を経て、宇和高校を卒業しました。ずっと私は「もの言わぬ、無口な子」だったですね。父や、兄が教員だった影響でしょうか、中学の頃から教員になりたいと思っていました。歌うことが大好きだったので、音楽の教師を目指しました。

問い：それで、希望通りになったのですか？

遠藤さん：それが、保健体育の教員になりました。というのは、愛媛大学教育学部を受験したのですが、ピアノの実技試験で失敗しました。でも、ダンスも好きだったので、第2志望としていた保健体育に受けました。

問い：大学時代はいかがでした？

遠藤さん：最初は寮生活、そのあと下宿に移りました。そういえば、60年安保の時代で、3年のとき

にビラか何かを見て、松山でのデモに1回だけ行ったことがありました。帰宅したら、樺美智子さんが東大の門に挟まれて、亡くなったというニュースが流れていて驚いたのを覚えています。

母校・宇和高校に赴任し、夫となる人に出会う

問い：卒業後に母校に赴任とは、よかったですね。

遠藤さん：それが、実は私は中学の教員になったかったです。高校の急増期で先生が足りなくて、高校が嫌なら採用できないと言われて。出来るかなあととても不安でしたよ。

問い：実際に高校で教え始めたらいかがでしたか？

遠藤さん：体育の教員と言っても球技がからっきしダメでした。でも、その当時は全校の女子生徒にダンスを教えることが出来て良かったです。

勤め始めて3年目に、新任の数学教員・遠藤紀夫がやってきました。彼が、ホー・チ・ミンの本などを「読まないか」と渡してくるんです。読んでみて、凄い人物がいるものだと驚きました。付き合い出してみると、彼は同学年でした。松山東高時代に結核で2年休学、その間にありとあらゆる本を読み漁り、愛大教育学部卒業後に宇和高校に赴任してきたと分かりました。とても人間を見る目が優しく、生徒をほんとうに大切にみついていることに感動しました。愛高教（愛媛県高校教職員組合）の組合員で、彼に誘われて、中島篤之助先生の原発の学習会にも行きました。物理学の話は分かりませんでしたが、「原発は未完成なもので、研究できても実用化すべきでない」、「自主、民主、公開の原則」と言われたことがとても印象に残っています。

結婚を機に人生がガラッと変わった！

問い：その後、紀夫さんにご結婚なさるのですね。

遠藤さん：結婚するにあたって「奨学金もらって国立大学を出たからには、女性も社会にお返しせねばね」と言われてね。私はそれまで、結婚したら教師を辞めて家庭に入るものだと思っていました。この言葉を受けて、私の人生がガラッと変わりました。その後、3人の子育てをしながら35年間、教員を続けることになりました。ただし、夫は結婚後まもなく政党の専従にと打診されて、5年で教員を辞めて

八幡浜に移住しました。

問い：宇和高に4年お勤めのあと、宇和島東高に移られたのですね。

遠藤さん：ええ、宇和島東高で教えていたときに、新婦人の中央から来られた石井あや子さんの「女らしさの昨日今日明日」という講演会が宇和島市内でありまして、それを生徒に勧めたことがあります。そうしたら生徒がたくさん聴きに行ってくれました。それが校長の耳に入り、校長室に呼ばれた上に、私一人が昇給から外されたことがありました。理由を聞きにいったら「生徒を扇動したから」「県が承知せんから」と言われて、それ以降、希望しても担任を持たせてもらえなかったですね。そんな時代でした。35年間の教師生活で、クラスを持ったのはたった1回でした。

またもや、思いもしなかった人生へ



問い：定年まで3年を残して58歳でお辞めになったのには、何か理由がおありだったのですか？

遠藤さん：夫はその後、八幡浜市議となりましてね。4期を務めたあと、5期目に挑戦するも落選しました。それで、次は私が選挙に出るようにと回りから強く勧められたのです。とんでもない！私はそういうことは苦手だからと固辞したのですが、八幡浜市議会を傍聴すると、慣れあい議会で、こりゃいかんと実感しました。夫から「みんなの声や願いを議会に届けるのが仕事だ」と言われ、それならできると、選挙に挑戦することになりました。蓋を開けてみると、2位で初当選しました。

八幡浜市議として5期17年半

問い：教員から、議員となっていかがでしたか？

遠藤さん：八幡浜が地元でないなかで、当選させてもらったので、それに応えようと頑張りました。ほどなく伊方原発で危険なプルサーマルを始めるらしいとの情報が入り、プルサーマルの学習会なども重ねました。住民に四電関係者も多いなかで伊方原発を争点にするのはとても難しい。でも、不安に思っている住民も多いことは分かっていたので、議会では毎回、原発問題について質問をし続けました。請願も出されましたが、全部否決されたものです。

それが、福島第一原発事故後が起こって、たくさ

んの市民の方から「あなたが言った通りのことが起こりましたね。怖いね」と声を掛けられましたよ。あれをキッカケに市民の皆さんの反応が大きく変わりましたね。

住民投票を実現するために奔走

問い：それが2015年の「住民投票を実現する八幡浜市民の会」結成につながったのですね。

遠藤さん：はい、12月7日には「再稼働の賛否を問う住民投票条例」の制定を求める11,175筆の署名を選挙管理委員会に提出し、有効署名人数9,939筆で有権者数の3分の1を超えました。でも残念なことに1月28日の臨時議会で否決されました。

この臨時議会は、実を言うと夫の葬儀の翌日でした。葬儀場で議会での討論の原稿を書いたものです。

問い：2017年、76歳のときに八幡浜市議を辞められて伊方町議選に立候補されました。

遠藤さん：伊方町議会を傍聴したら、原発に反対する議員が一人もいない。これではだめだ。町民の声で政治を動かしたいとの一念からでした。住民の方は本当はみんな原発には反対なのですから、勝てると思ったのですが、力不足で落選しました。

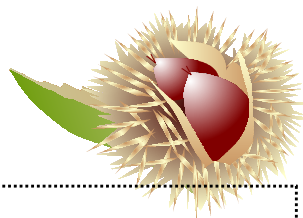
問い：署名活動で共同代表を務めた、娘の綾さんが、八幡浜市議になったのは快挙でしたね。

遠藤さん：夫、私、そして娘と脱原発の八幡浜市議の座を守れたことはよかったです。

伊方町議選には80歳で再挑戦しましたが、これも落選しました。でも、2回の町議選を通じて住民の方に「福島事故を見て、子どもたちが帰るべき故郷がなくなっては困ると思った。誰かが立ち上がらないかと待っていた」と言われたり、「ちょっとした事故でも放射能が漏れれば風評被害が起こる。農業も漁業もダメになってしまう」と真剣に訴えられたりと、伊方町内には「原発はいらない」と思っている方が、私の想像を超えて沢山おられることを実感できたことは収穫でした。

問い：原発についての思いを容易には語れない状況にある伊方町の方々の本音を聞きだされたのですね。長い間、脱原発のために議員として闘ってこられた成果とも言えますね。

遠藤さん：はい、今後とも八幡浜市議として脱原発を訴える娘を支えていきます。



インタビューを終えて：

八幡浜駅まで車で迎えに来て頂いて、事務所で話を伺いました。新型コロナのワクチン接種後の重篤な副作用を経験されて以来、体調が万全ではないとのことでしたが、終始にこやかにお話し下さいました。脱原発を貫かれた80余年の人生にどこまで迫ることが出来たのか甚だ心許ない思いです。(1)

伊方原発をとめる会 2024年度会計報告 (2024年4月1日～2025年3月31日)

<収入>

(単位:円)

前年度繰越金	293,552	
個人会費	962,000	1口1000円
団体会費	162,000	1口3000円
カンパ	1,126,950	正光会労組より50万円
事業収入	0	書籍などの売り上げ
雑収入	215	受取利息
預り金	3,765,000	控訴費用
計	6,309,717	

<支出>

(単位:円)

講師費用	327,170	講演会3回 講師謝礼
賃料	126,000	事務所家賃(6ヶ月分)
集会会場費	53,913	集会、講演会の諸費用
会議費	28,670	幹事会の会場使用料
宣伝費	374,991	チラシ、ニュース印刷費
通信費	917,296	ニュース郵送料、電話代
事務所経費	63,424	光熱費、パソコン保守代
事務所活動費	124,663	交通費、コピー代など
消耗品費	93,486	事務用品、封筒代など
雑費	12,884	送金手数料、賛同金など
預り金	3,810,000	控訴費用弁護士に送金
事業費	0	
繰越金	377,220	
計	6,309,717	

差引残高(次年度繰越金) 377,220 円

当会は皆さまの会費やご寄付によって運営しています
厳しい財政状況がつづいています。

引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

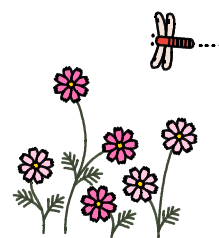
会費とカンパのお願い

2025年度の会費納入がまだの方は、よろしくお願いいたします。
カンパもご協力いただけるとありがたいです。

【年会費 1口 個人 1000円 団体 3000円 学生 500円】

口座名はいずれも「伊方原発をとめる会」

* 郵便振替 口座番号 01610-9-108485
* ゆうちょ銀行 通常貯金 記号 16190 番号 17866721
* ゆうちょ銀行 六一八支店 普通預金 1786672 [ゆうちょ銀行以外からの振込]
* 伊予銀行 本店営業部 普通預金 4679997



文芸コーナー

激流に流れるごとく見えるとも
岩に根をはる水草と知れ

須藤昭男

法廷では裁判官も「宣誓」せよ
熱水を流して原発涼し顔

H・S

永遠に戦後や茄子のライスカレー

城戸しの

ミカン柿 熟すを待つは鳥と猪

河童

原子炉も熱帯夜も人の手に負えず
頸動脈を冷やしつつ寝る

ZERO子

※俳句、川柳、短歌、詩などの
作品を募集しています。葉書、
メール、FAXでお寄せ下さい。

ikata-tomeru@nifty.com

Fax 089・948・9991



これからの予定

- ♪ 核なき世界に向けて映画上映とトークイベント
9月13日(土) 13:15~17:00
愛媛県美術館講堂(松山市堀之内) 資料代500円
- ♪ 千葉商科大学前学長 原科 幸彦 さん講演会
自然エネルギー100%社会を創る-地域資源の活用で日本再生
10月13日(月、祝日) 14:00~16:00
コムズ(松山市男女共同参画推進センター)5F大会議室
- ♪ 伊方原発いらん! 市駅前定例アクション-毎月第1水曜日
10月1日(水)、11月5日(水) 17:30~18:15
- ♪ 第38回伊方集会
11月2日(日) 10:00 四国電力伊方原発ゲート前集合

編集後記

被爆80年の8月が過ぎていく。私たちは3・11の東京電力・福島第一原発事故を教訓にして「原子力の平和利用」の幻想=原発安全神話から脱却したはずだった。人々は、原爆と原発は双子の兄弟、核と人類は共存できないとハッキリと認識したのではないかと。ところが、事故からたった10数年で「原発の最大限活用」と政権が言い出した。途端に、各地の脱原発裁判の判決内容も変わった。三権分立の日本に住んでいるはずなのだけども。これも幻想とは言いたくない。国の将来を憂える正義感に溢れた勇気のある裁判官はきっといる! (I)